



SAP BOT

TX_SE16 によるテーブル値の取得





目次

概要	3
必要要件	4
AUTOMATE タスクのインポート方法	7
「SAP BOT - TX_SE16 によるテーブル値の取得」の実行方法	8
付録 A - SAP トランザクションと EXCEL の出力例	10
付録 B - ALV グリッド表示設定	11
付録 C - トラブルシューティング	12



概要

この How to ガイドでは、「SAP Bot - TX_SE16によるテーブル値の取得」をご紹介します。繰り返しの多い手作業に貴重な時間とリソースを費やす代わりに AutoMate に任せて、RPA による自動化で IT とビジネスプロセスを合理化しましょう。AutoMate の支援により、ボットが手作業を代行することで反復作業を大幅に減らし、作業の品質と一貫性を向上させることができます。自動化されている主なプロセスは、レポート作成、ファイル移動、データのインポートとエクスポート、バッチ処理のスケジューリングです。

SAP Bot - Get table values with TX SE16 は、SAP Transaction SE16 (Data Browser) を実行して、指定したテーブル値リストを取得し、その結果を Excel または csv ファイルにエクスポートします。SAP テーブルと出力形式を設定することができます。また、VARIANTS にも対応しています。これらは、カスタマイズ可能な結果を得るために、事前に準備し保存しておくことができるテーブルレイアウトと値の選択です。

SAP トランザクション T001 テーブルの画面例:

Field	Selection	to
BUKRS	<input type="checkbox"/>	
BUTXT	<input type="checkbox"/>	
ORT01	<input type="checkbox"/>	
LAND1	<input type="checkbox"/>	
WAERS	<input type="checkbox"/>	
SPRAS	<input type="checkbox"/>	
KTOPL	<input type="checkbox"/>	
WAABW	<input type="checkbox"/>	
PERIV	<input type="checkbox"/>	
KOKFI	<input type="checkbox"/>	
RCOMP	<input type="checkbox"/>	
ADRNR	<input type="checkbox"/>	
STCEG	<input type="checkbox"/>	
FIKRS	<input type="checkbox"/>	
XFMCO	<input type="checkbox"/>	
XFMCB	<input type="checkbox"/>	
XFMCB	<input type="checkbox"/>	
TXJCD	<input type="checkbox"/>	
FMHRDATE	<input type="checkbox"/>	
BUVAR	<input type="checkbox"/>	
FDBUK	<input type="checkbox"/>	
XFDIS	<input type="checkbox"/>	
XVALV	<input type="checkbox"/>	
XCKFM	<input type="checkbox"/>	

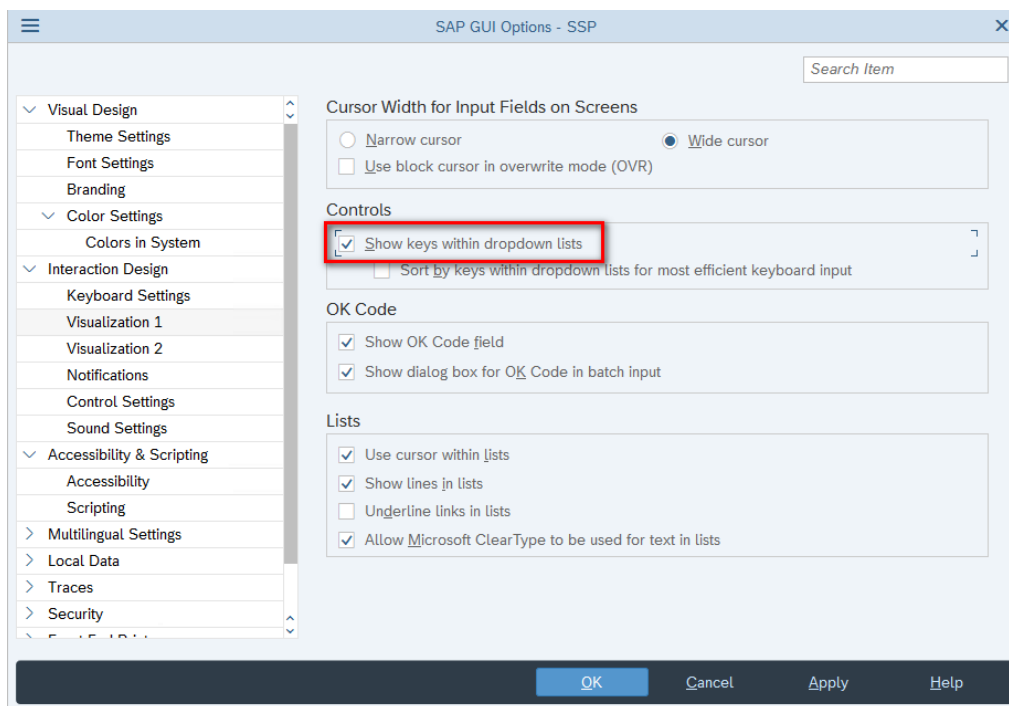


必要要件

- タスクの実行に使用するユーザプロファイルの表示を「ALV Grid Display」（SAP リストビューア）に設定します: SAP ツールは、一般的なリスト操作とフォーマットを提供し、リストを Excel にエクスポートすることを可能にします。設定方法の詳細については、付録 B - ALV グリッド表示の設定を参照してください。
- **AutoMate: ServiceNow Bot** ボットは動作に AutoMate を必要とします。最低限サポートされているバージョンが以下の通りです:
 - AutoMate Ultimate 11.2
 - AutoMate Plus 11.2
 - AutoMate Desktop 11.2
- **AutoMate Markup Language file (.AML):** SAP ボットタスクのステップを含む AutoMate で使用される主要なファイル形式



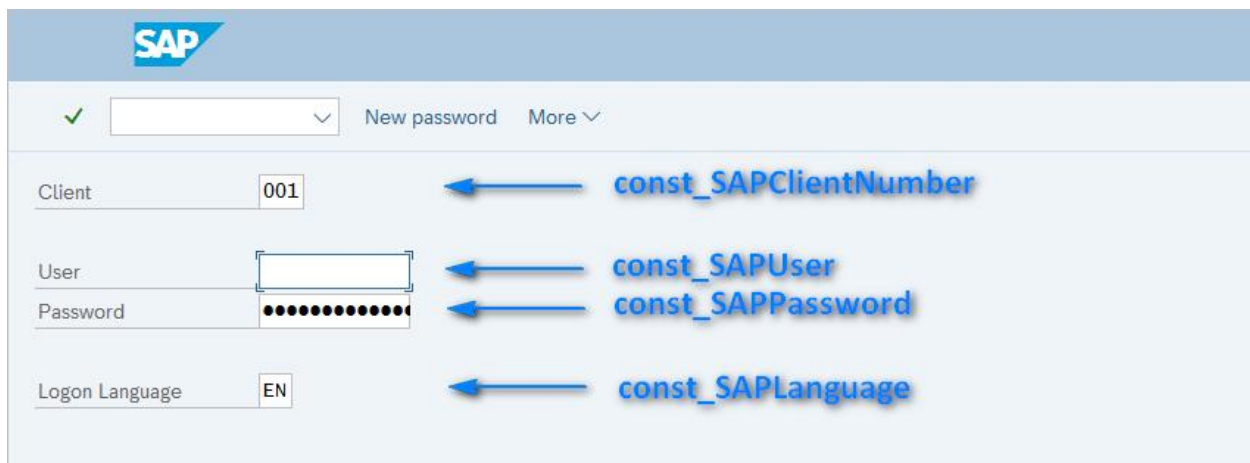
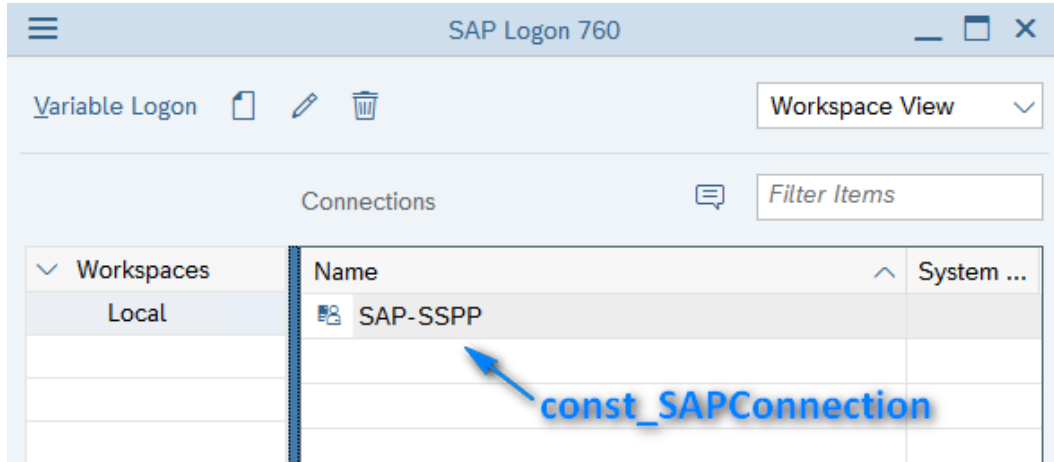
- SAP クライアント: 最低限必要なものは
 - SAP Logon 760
 - ドロップダウンリストにキーを表示する機能が有効である



- XD01トランザクションを実行するのに十分な権限を持つユーザー
- このトランザクションおよび任意のトランザクションを実行するために必要なレベルの権限を持っているかどうかを確認するには、SU53を使用します。SE16 を実行し、その直後に /NSU53 を実行するだけです。チェックされたすべての権限のレポートが表示されます。
- 接続と SAP ログインのための定数を自動化:
 - `const_SAPClientNumber`: SAP クライアント番号。デフォルト : 001
 - `const_SAPConnection`: SAP ログイン接続名
 - `const_SAPLanguage`: SAP 言語。デフォルト: EN



- `const_SapLogonPath`: SAP の実行可能なパス。デフォルトでは
C:\Program Files (x86)\SAPFrontEndSapGui
- `const_SAPPassword`: SAP ログインパスワード
- `const_SAPUser`: SAP ログインユーザー名



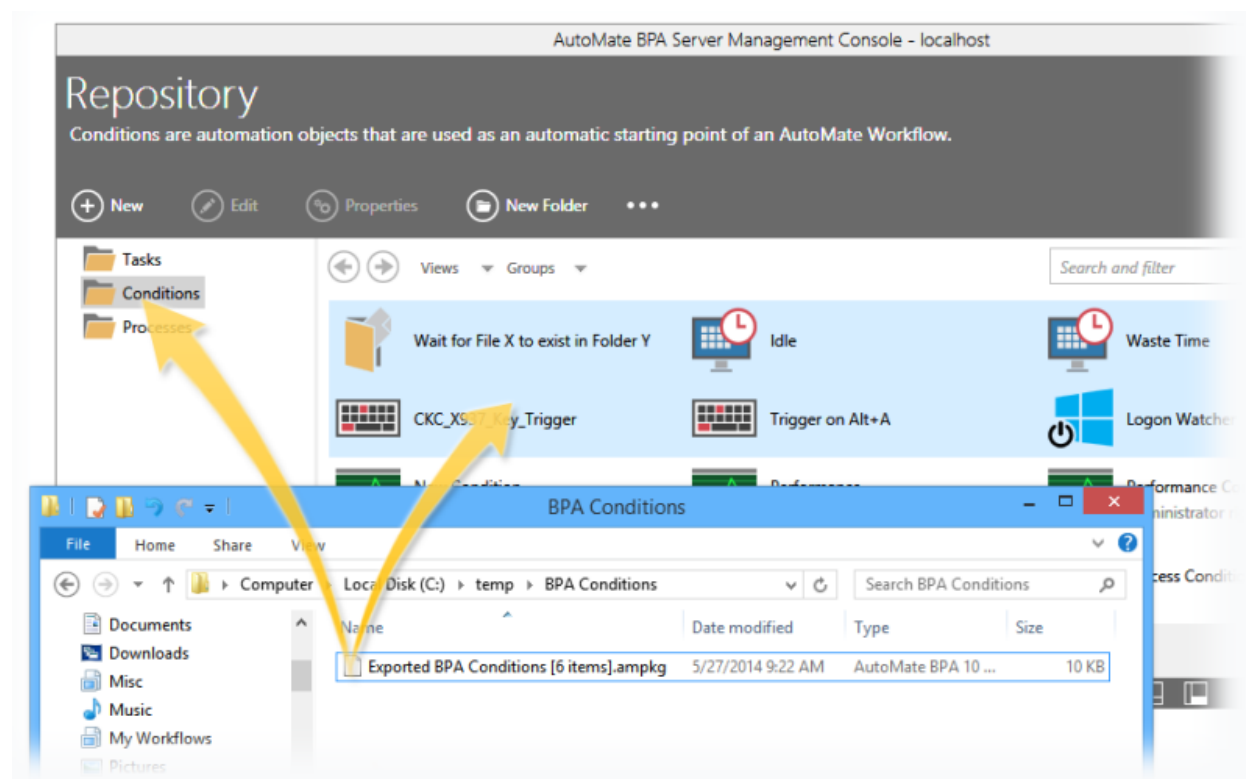


AUTOMATE タスクのインポート方法

互換性のあるファイル形式は、ドラッグ&ドロップでレポジトリに取り込むことができます

サーバー管理コンソールから[レポジトリ]セクションに移動します。

目的のファイルを元の場所からドラッグして、SMC 内のフォルダにドロップします。ファイルは、フォルダーアイコンまたはメインパネルにドロップすることができます（下図参照）。インポートされたオブジェクトは、自動的に対応するリポジトリの場所に配置されます。



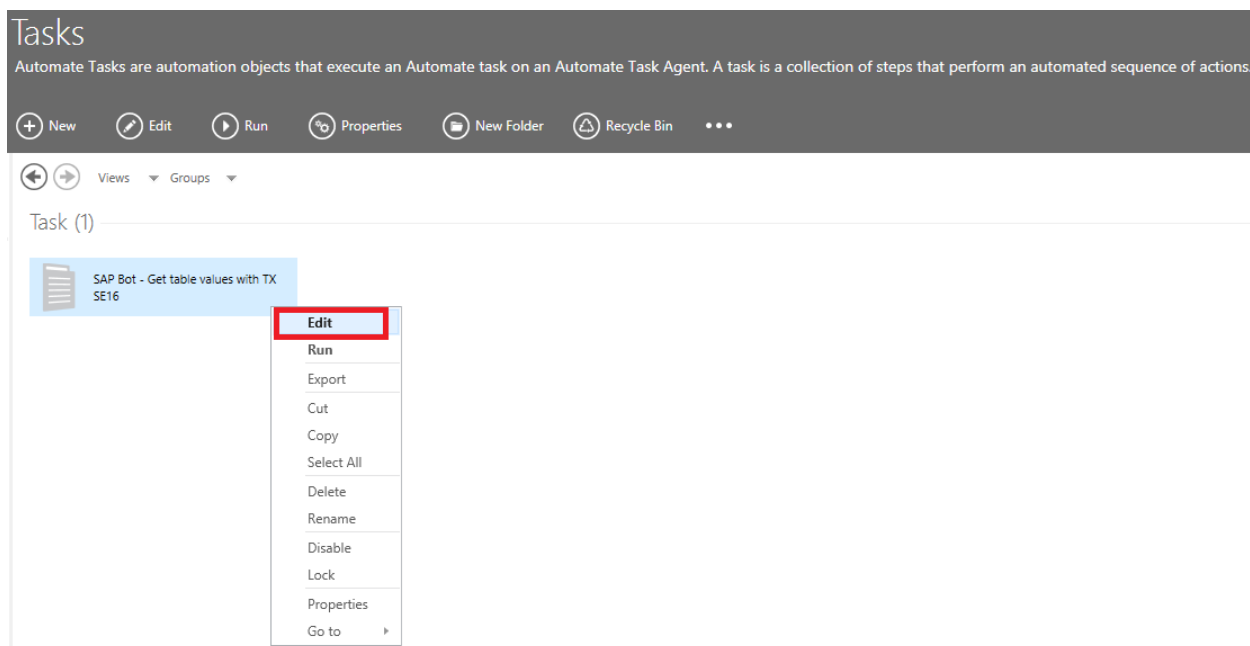


「SAP Bot - TX_SE16 によるテーブル値の取得」の実行方法

このタスクを初めて実行する場合、いくつかのパラメータを設定する必要があります。

サーバー管理コンソールを開き、インポートしたタスクを探します。

インポートしたタスクを右クリックし、「編集」を選択して編集します



ステップ2では、希望する出力に合わせて次の変数を編集してください:

- **var_SAPTableName:** 値を取得するテーブルの名前です。
- **var_SAPTableNameVariant:** 値を取得するテーブル Variant の名前。SAP のバリエーションについての詳細は、付録Cを参照してください。
- **var_FilePath:** 出力ファイルが保存される場所です。
- **var_OutputFileFormat:** 出力ファイルの形式を指定します。Excel または CSV に設定することができます。パフォーマンスを上げるために、Excel 形式で設定することをお勧めします。



出力ファイルの名前は、次の名前パターンの例を使って自動的に設定されます:

T001_22112019.xlsx

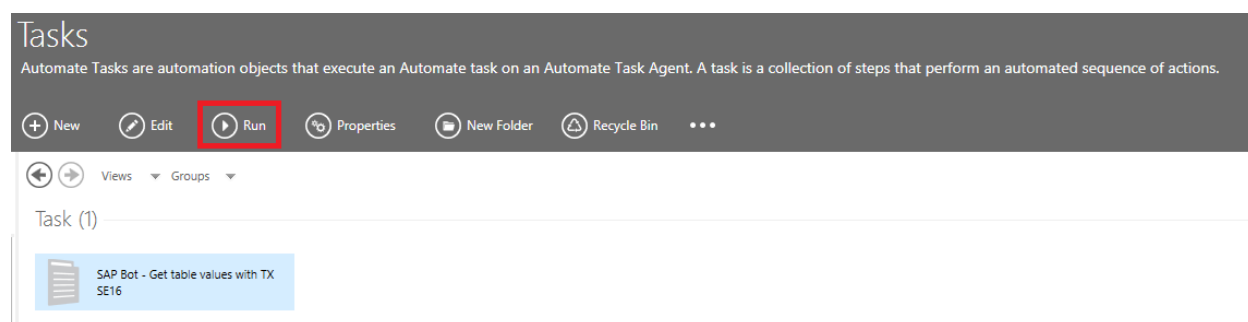
T001: テーブルコードまたはテーブル名

22112019: 日付時刻のパターン (DDMMYYYY)

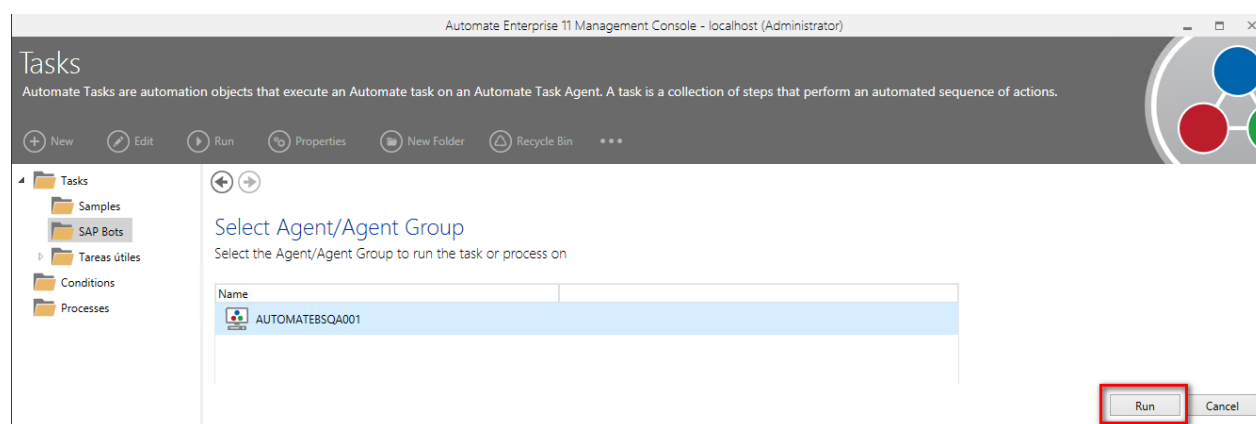
xlsx: var_OutputFileFormat が Excel(CSV) で設定されている場合のファイルの拡張子

タスクを保存して閉じる

タスクを選択し、「実行」をクリック



エージェントを選択し、再度「実行」をクリックします。





MAND...	BUKRS	BUTXT	ORT01	LAND1	WAER...	SPRAS	KTOPL	WAABW	PERIV	KOKFI	RCOMP	ADNRN	STCEG	FKRS	XFMCO	XFMCB	XFMCA	TXJCD	FMHRDATE	BUVAR	FDBUK	XFDIS	XVALV	XSKFN	KKBER	XMWSN	MREGL	XGSB
001	0001	SAP A.G.	Walldorf	DE	EUR	D	INT	10	K4	2																		
001	0MB1	IS-B Musterbank Deutschl.	Walldorf	DE	EUR	D	DMB1	K4	1																	0001		
001	AE01	Country Template AE	Dubai	AE	AED	E	INT	K4	1			0000023021																
001	AR01	Country Template AR	Argentinien	AR	ARS	S	INT	K4												2			X					
001	ARG1	Country Template AR	Argentinien	AR	ARS	S	INT	10	K4											2			X					
001	AT01	Country Template AT	Austria	AT	EUR	D	INT	10	K4	2										1								X
001	AU01	Country Template AU	Australia	AU	AUD	E	INT	10	V6											2			X	X		X		X
001	BE01	Country Template BE	Belgium	BE	EUR	E	CABE	10	K4	2			BE000009797							2			X	X		0001	X	X
001	BR01	Country Template BR	Brazil	BR	BRL	P	INT	10	K4											2			X					
001	CA01	Country Template CA	Canada	CA	CAD	E	CANA	10	K4	2										2			X					X
001	CH01	Country Template CH	Switzerland	CH	CHF	D	CACH	10	K4	2										1			X					X
001	CL01	Country Template CL	Chile	CL	CLP	S	INT	10	K4				0000022910							2			X					
001	CN01	Country Template CN	China	CN	CNY	1	CACN	10	K1	2										2			X			0001		
001	CO01	Country Template CO	Colombia	CO	COP	S	CACO	10	K4	2										2								X
001	COPY	Copy from CC.0001 (Only G/L accounts B-seg)		DE	EUR	D	INT	10	K4	2													X					X
001	CZ01	Country Template CZ	Czech Republic	CZ	CZK	C	CACZ	5	K4	2			CZ1234567890										X					
001	DE01	Country Template DE	Germany	DE	EUR	D	GKR	10	K4	2													X					X
001	DE02	Country Template DE	Germany	DE	EUR	D	KGD	10	K4	2													X					X

[illegible]

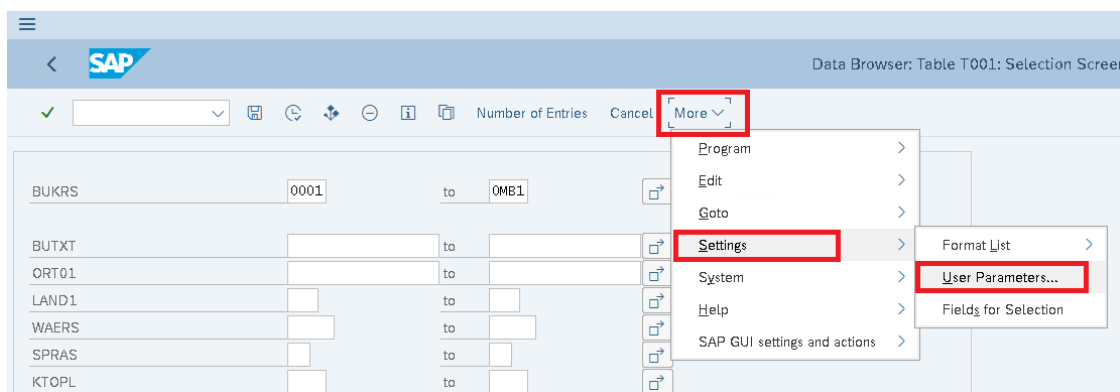


付録 B –ALV グリッド表示設定

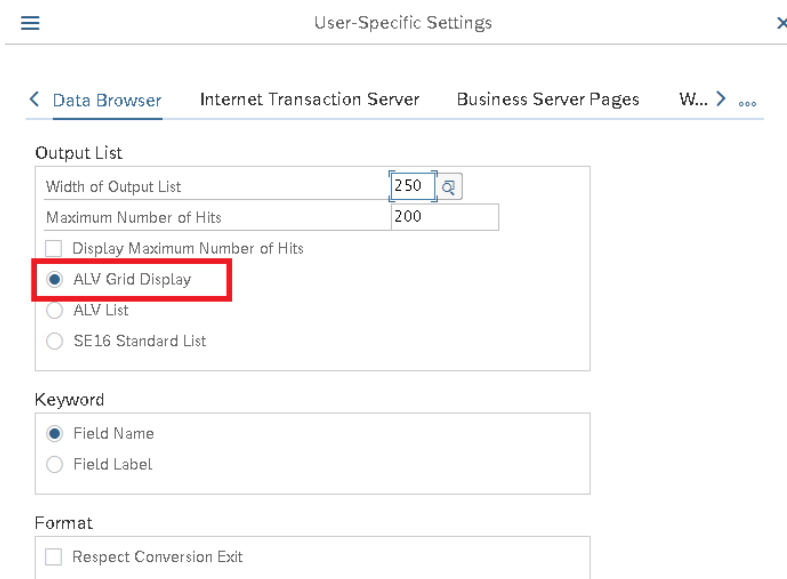
ここでは、グローバルな設定として、または指定されたユーザーに対して設定することができます。この例では、指定されたユーザーに対して設定します。

ALV グリッド表示を設定するためには、SAP トランザクション SE16 を実行、テーブルを選択、その後、設定する必要があります:

1. 「More」 > 「Settings」 > 「User Parameters」



2. ユーザー固有の設定で、データブラウザタブを開き、ALV グリッド表示を選択します。





付録 C-トラブルシューティング

- ログ: 実行毎に、トラブルシューティングのためボットはログファイルを作成します。 ログファイルは C:\Automate\Tasks\<<TASK NAME>>に保存されます。デフォルトでは、タスク名は *SAP Bot - Get table values with TX SE16*.

About HelpSystems

Organizations around the world rely on HelpSystems to make IT lives easier and keep business running smoothly. Our software and services monitor and automate processes, encrypt and secure data, and provide easy access to the information people